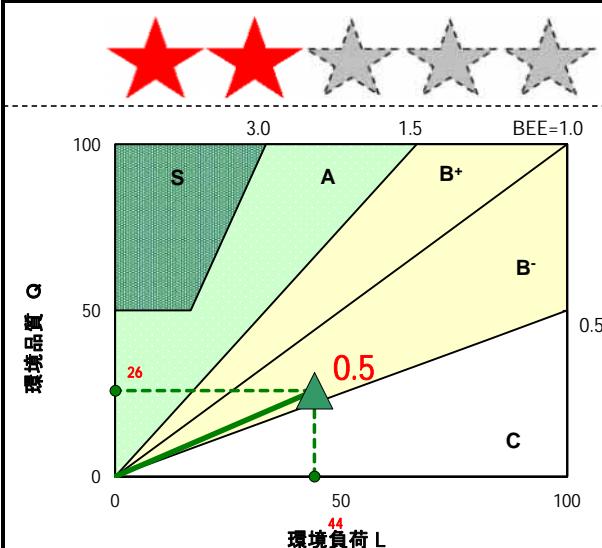


# CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	熊本森六化成(株) 新工場	階数	地上2階、地下0階
建設地	熊本県宇土市大字川平町1番1、同2番1、同241番、同242番、同243番、同244番、同245番2	構造	S造
用途地域等	工業専用	平均居住人員	0人
省エネ: 地域区分	6地域	年間使用時間	0時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年10月 予定	評価の実施日	2025年11月25日
敷地面積	10,377 m <sup>2</sup>	作成者	古閑 正次
建築面積	4,009 m <sup>2</sup>	確認日	2025年11月26日
延床面積	4,627 m <sup>2</sup>	確認者	古閑 正次

## 2 CASBEE評価結果

## ■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 0.5

$$\text{■ BEE(環境効率)} = \frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$$

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B <sup>+</sup>	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B <sup>-</sup>	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

#### ■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	★★★★★
30%超60%以下	★★★★★
60%超80%以下	★★★
80%超100%以下	★★
100%超	★

### 3 熊本県重占評価結果

■ 重点事项综合评估



### 【重点事項1】温室効果ガス排出量削減の推進

譯師

### 【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

82.5

### 【重点事項3】県の地域資源の有効活用と保全

80点以上100点未満

#### 【重点事項4】循環型社会の実現

40点以上(40点未満)

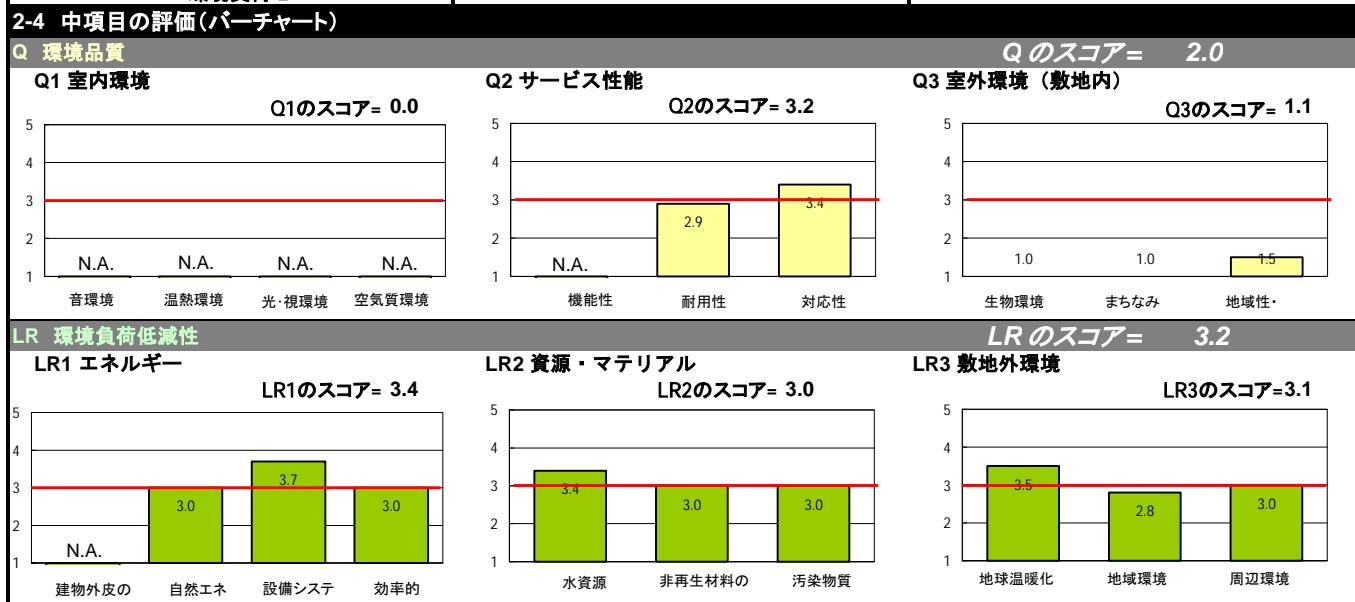
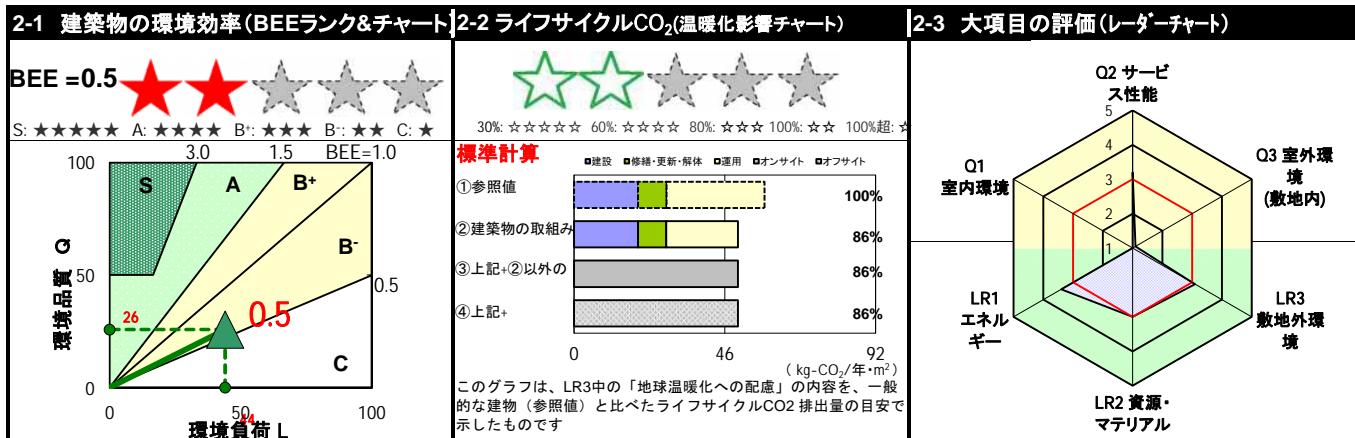
40 占未滿

[View Details](#)

※評価点は、100

※評価点は、100点以上が推奨です。

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	熊本森六化成(株) 新工場	階数	地上2階、地下0階
建設地	熊本県宇城市大津町太平川宇佐町地内20番1, 20-123番, 20-123番1, 20-123番1, 20-123番1(並び地番)	構造	S造
用途地域等	工業専用	平均居住人員	0人
省エネ: 地域区分	6地域	年間使用時間	0時間/年(想定値)
建物用途	工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年10月 予定	評価の実施日	2025年11月25日
敷地面積	10,377 m <sup>2</sup>	作成者	古閑 正次
建築面積	4,009 m <sup>2</sup>	確認日	2025年11月26日
延床面積	4,627 m <sup>2</sup>	確認者	古閑 正次



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフケーブルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用・改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフケーブルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい

スコアシート 実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄				全体
配慮項目		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>2.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>						-
1 音環境		-	-	-	-	-
1.1 室内騒音レベル		-	-	-	-	-
1.2 遮音		-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能		-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-
1.3 吸音		-	-	-	-	-
2 温熱環境		-	-	-	-	-
2.1 室温制御		-	-	-	-	-
1 室温		-	-	-	-	-
2 外皮性能		-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-	-
2.2 湿度制御		-	-	-	-	-
2.3 空調方式		-	-	-	-	-
3 光・視環境		-	-	-	-	-
3.1 昼光利用		-	-	-	-	-
1 昼光率		-	-	-	-	-
2 方位別開口		-	-	-	-	-
3 昼光利用設備		-	-	-	-	-
3.2 グレア対策		-	-	-	-	-
1 昼光制御		-	-	-	-	-
3.3 照度		-	-	-	-	-
3.4 照明制御		-	-	-	-	-
4 空気質環境		-	-	-	-	-
4.1 発生源対策		-	-	-	-	-
1 化学汚染物質		-	-	-	-	-
4.2 換気		-	-	-	-	-
1 換気量		-	-	-	-	-
2 自然換気性能		-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮		-	-	-	-	-
4.3 運用管理		-	-	-	-	-
1 CO <sub>2</sub> の監視		-	-	-	-	-
2 喫煙の制御		-	-	-	-	-
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.43	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 機能性</b>		-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ		-	-	-	-	-
1 広さ・収納性		-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	-
3 パリアフリー計画		-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-	-
1 広さ感・景観		-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	-
3 内装計画		-	-	-	-	-
1.3 維持管理		-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-	-
<b>2 耐用性・信頼性</b>		2.9	0.50	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	-
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30	-	-	-
1 車体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		5.0	0.20	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	-
2.4 信頼性		2.6	0.20	-	-	-
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	-
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	-

主要な用途上位3種のうち、2種以上にB以上を使用し、Eは不使用

3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり	3.4	0.50	-	-	3.4
	1 階高のゆとり	5.0	0.30	-	-	
	2 空間の形状・自由さ	5.0	0.60	-	-	
	3.2 荷重のゆとり	5.0	0.40	-	-	
	3.3 設備の更新性	3.0	0.30	-	-	
	1 空調配管の更新性	2.6	0.40	-	-	
	2 給排水管の更新性	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	3.0	0.20	-	-	
	4 通信配線の更新性	3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	3.0	0.10	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	1.0	0.20	-	-	
	3.0 0.20	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)		-	0.57	-	-	1.1
1 生物環境の保全と創出		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		1.0	0.40	-	-	1.0
3 地域性・アメニティへの配慮		1.5	0.30	-	-	1.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		1.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制		3.0	0.13	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用		3.7	0.63	-	-	3.7
3 設備システムの高効率化		3.0	0.25	-	-	3.0
4 効率的運用		3.0	1.00	-	-	
集合住宅以外の評価		3.0	0.50	-	-	
4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		-	-	-	-	
集合住宅の評価		-	-	-	-	
4.1 モニタリング		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2 雜排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		3.0	0.60	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減		3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		5.0	0.20	-	-	
①S造の為躯体と仕上げ材が容易に分別可能、②OAフロアの採用により内装材と設備が錯綜せず解体・改修・更新の際に容易にそれぞれを取り外すことができる		-	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	
1 消火剤		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		3.0	1.00	-	-	
3 冷媒		-	-	-	-	
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮		2.8	0.33	-	-	2.8
2.1 大気汚染防止		5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1 騒音		3.0	0.33	-	-	
2 振動		3.0	0.33	-	-	
3 悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2 曜光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	
広告物照明なし		3.0	0.30	-	-	

## 熊本県重点評価結果 スコアシート ※手動入力は不要

実施設計段階

建物名称 熊本森六化成(株) 新工場

■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

熊本県重点評価結果				総合評価点	72	
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
① 温室効果ガス排出量削減の推進				82.5	0.40	33.00
Q1-2.1.2 外皮性能	0.0	0.00				
Q1-3.1.3 昼光利用設備	0.0	0.00				
Q1-3.2.1 昼光制御	0.0	0.00				
LR1-1 建物外皮の熱負荷抑制	0.0	0.00				
LR1-2 自然エネルギー利用	3.0	0.29				
LR1-3 設備システムの高効率化	3.7	0.43				
LR2-2.1 材料使用量の削減	3.0	0.14				
LR3-2.3.3 交通負荷抑制	3.0	0.14				
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				50	0.20	10.00
Q2-1.1.3 バリアフリー計画	0.0	0.00				
Q2-2.1.1 耐震性	3.0	0.33				
Q3-1 生物環境の保全と創出	1.0	0.20				
Q3-3 地域性・アメニティへの配慮	1.5	0.27				
LR3-2.2 温熱環境悪化の改善	2.0	0.20				
③ 県の地域資源の有効活用と保全				72.5	0.20	14.50
Q3-2 まちなみ・景観への配慮	1.0	0.20				
LR2-1.1 節水	4.0	0.30				
LR2-1.2 雨水利用システム導入	3.0	0.20				
LR2-2.5 持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30				
④ 循環型社会の実現				72	0.20	14.40
Q2-2.2 部品・部材の耐用年数	3.2	0.30				
Q2-3 対応性・更新性	3.4	0.30				
LR2-2.2 既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10				
LR2-2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15				
LR2-2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15				

## ■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

## ◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点×各重点事項の重み係数)の総和

※重み係数の総和は、「1」であること。

## ◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア×各重点項目の重み係数)の総和×(5/4)×20

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4)×20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数

## ■ 環境関連の配慮事項

熊本森六化成(株) 新工場

印刷:モノクロ

設定済み

・適宜、箇条書き等で記入してください。

・キーボード操作:改行の際は【Alt】キー＆【Enter】キーで次の行に進みます。

計画上の配慮事項		※必ず、何らかのコメントを記入してください。
総合	壁長さ比率や天井高に余裕をもたせゆとりのある空間を計画した。	
Q1 室内環境	工場用途の為、評価対象外	
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"><li>・PF管を採用し、構造部材だけでなく、仕上げ材を痛めることなく更新・修繕ができるよう配慮した。</li><li>・動かせないものを極力無くし、設備や空間のプランニングの自由度を高めた。</li></ul>	
Q3 室外環境 (敷地内)	<ul style="list-style-type: none"><li>・空地を設け、敷地内の歩行者空間等へ風を導き、暑熱環境緩和に努めた。</li></ul>	
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"><li>・LED照明を採用し省エネルギーに努めた。</li></ul>	
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"><li>・LGS下地により躯体と仕上げ材が容易に分別可能とした。</li><li>・PF管や二重天井により建物の更新性に配慮した。</li></ul>	
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"><li>・ライフサイクルCO2排出率70%と、CO2の排出を極力抑えた設計とした。</li></ul>	
その他	特になし	